

Clostridium difficile toxin検体提出数が正の相関を示したことから、抗菌薬の濫用に対する対策や適正な抗菌薬選択、適正な投与期間、標準予防策の実施などの取り組みを実施したうえで、抗菌薬使用量を抑えることが重要だと示唆された。

まとめと展望

今回、平成22年度の調査よりも対象施設を拡大したことで、日本国内（本調査参加194施設）の感染制御にかかわる薬剤師の実態がより明らかになったと考える。また、医療施設における専門/認定薬剤師や感染制御活動にかかわる薬剤師の取り組み内容や実施状況を具体的に数値として示し、比較することが可能となった。さらに、全国を対象とした抗菌薬使用量調査を実施し、その使用量や施設背景との関係を明らかにしたことにより、

今後専門薬剤師が各施設において感染制御の取り組みを評価する指標として期待できることが示唆された。本調査は、今後さらに多くの施設において実施し、継続的に行っていく必要が考えられた。

謝辞

今回の調査を実施するにあたりご協力いただいた協力施設の皆様に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 1) 北村正樹ほか：感染制御認定および専門薬剤師による医療経済を含めた病院感染制御活動への貢献度実態調査—平成22年度学術委員会学術第8小委員会報告—, 日本病院薬剤師会雑誌, 47, 962-964 (2011).
- 2) D.L. Monnet : Toward multinational antimicrobial resistance surveillance systems in Europe, *Int J Antimicrob Agents*, 15, 91-101 (2000).

平成23年度学術委員会学術第6小委員会報告 卒後臨床研修としての病院薬剤師レジデント制度に関する 調査・研究

委員長

神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部

橋田 亨 Tohru HASHIDA

委員

北里大学北里研究所病院薬剤部

厚田幸一郎 Koichiro ATSUDA

愛媛大学医学部附属病院薬剤部

(現：就実大学薬学部)

末丸 克矢 Katsuya SUEMARU

神戸薬科大学

岩川 精吾 Seigo IWAKAWA

福岡大学病院薬剤部

鷲山 厚司 Atsushi WASHIYAMA

兵庫医科大学病院薬剤部

木村 健 Takeshi KIMURA

はじめに

医師や看護師においては、それぞれの教育課程および職員教育のなかで医療現場において行う実地実習が不可欠とされ、大きな意味をもち続けてきた。後進を育成するシステムは、その分野、職種の発展を支える大きな柱であり、継続的に人を育てることに成功した組織のみが、将来に向けた可能性を広げていけるといっても過言ではないだろう。学術第6小委員会は、卒後研修の一環として実施される病院における薬剤師レジデント制度の実態を調査し、その制度のもたらす成果を明らかにすること

を目的として、平成23年度から活動を開始した。初年度の具体的な目標として、まず先行実施されている薬剤師レジデント制度の実態を明らかにすることで、新たに制度を設ける施設に参考となる情報を提供すること、また、将来のキャリアパスとして薬剤師レジデントを志望する薬学生や、大学の進路指導担当者にとって必要なディレクターを提供することを掲げた。

米国における薬剤師レジデント制度

米国における薬剤師レジデント制度は、Pharm. D.コース修了者が薬剤師免許を取得した後のキャリアパスとし

て位置づけられ、通常、post-graduate year 1（以下、PGY1）と呼ばれる1年目のプログラムにおいて、臨床薬剤業務全般に渡った研修を行い、PGY1修了者のなかからさらに専門分野に特化した2年目post-graduate year 2（以下、PGY2）に進む者が選抜される。American Society of Health-system Pharmacists (ASHP) や American Pharmaceutical Association (APhA) は、各医療機関における一定水準を満たした薬剤師レジデントプログラムを認証するとともに、登録されたレジデント希望者と認証受入施設間を調整するマッチングプログラムを設けている。これらのプログラムに参加した者は施設間で異なるが、おおよそ初任給の半分程度の奨学金（給与）を得ることができる。

PGY1はPharmacy（病院やクリニックにおける薬剤師業務）、Community Pharmacy（地域の薬局薬剤師業務）、およびManaged Care Pharmacy（民間保険機関と患者の契約に基づく医療における薬剤業務）の3種のプログラムに分かれ、平成24年5月現在の認証施設数は、Pharmacyが最も多く761施設、Community Pharmacyが79施設、Managed Care Pharmacyが36施設となっている。PGY1の薬剤師レジデントには、患者中心のケアと臨床薬剤業務を経験するなかで、専門的能力の成長を促し、将来どのような分野においてもリーダーシップを発揮できるスキル形成の機会が提供される。PGY1の薬剤師レジデントはそのプログラムを通して、問題解決のために必要な知識を習得し、戦略を絞り込む能力を獲得し、専門的価値観や態度を確立し、臨床的判断力を高めてい

く。

PGY2は、Board of Pharmaceutical Specialties (BPS) によって専門薬剤師認定が行われているPharmacotherapy, Nuclear Pharmacy, Oncology Pharmacy, Nutrition Support Pharmacy, Psychiatric Pharmacy, Ambulatory Careなどの各分野に加えてInfections Disease Pharmacy, Drug Information, HIV Pharmacyなど多岐に渡るプログラムが用意されている¹⁾。

平成23年8月、本小委員会メンバーが、神戸大学・神戸薬科大学薬剤師レジデント（2年目）2名と共に、カリフォルニア大学サンフランシスコ校（以下、UCSF）での薬剤師レジデント（PGY1）の臨床研修見学並びに研修指導者（プリセプター）や薬剤師レジデントと意見交換を行う機会があった。薬剤師レジデントは病棟チームの一員として、処方薬剤の変更等積極的に薬物治療にかかわっていた。外来でもワルファリン服用患者からの情報収集を行い、プリセプターと連携して投与量調節を進めていることが印象的であった。また薬学生の臨床実習にも薬剤師レジデントはプリセプターと共に指導に加わっており、実践的に研修していることを神戸大学・神戸薬科大学薬剤師レジデントと共に把握した（図1）。

わが国における薬剤師の 卒後臨床研修制度

わが国における卒後臨床研修制度については、従来から大学病院を中心に実施されていた薬剤師研修生制度がある。なかには、40年以上継続している実績を有した



プリセプター
Answer the questions

- 高い専門性をもったベテラン薬剤師
- 行動すべてが規範となる

薬剤師レジデント
Check prescriptions

- 1人でチームに参加
- 毎日プリセプターと面談、1日の報告をする
- 薬学生を受け持つ（2名程度）
- リーダーシップ教育を受ける

薬学生
Study about patients

- 1人5名程度の患者を受け持つ
- 患者情報の収集

図1 薬剤師レジデントとプリセプター、薬学生（UCSF）

施設もあり、これまでに病院薬剤師の養成に重要な役割を果たしてきた。通常半年～1年間の研修期間が設けられており、必要に応じて期間の延長が可能とされている場合もある。研修修了生の進路は、多くの場合、研修受入施設や関連病院での勤務である。

一方、わが国における薬剤師レジデント制度は、その歴史も浅く、米国のように公的な研修プログラム認証は行われておらず、施設ごとに独自の運営がなされている。わが国で薬剤師レジデントを標榜しているプログラムは大きく2つに分類される。すなわち、先に述べた薬剤師研修生制度と同様に学部あるいは大学院卒業後の薬剤師の最初のキャリアとしての初期研修プログラムと²⁾、ある程度薬剤師経験あるいは研究・教育歴を経た後に特定の分野におけるスペシャリストを目指す専門薬剤師プログラムに大別される。後者の具体例としては、がん専門薬剤師の養成を目的とした薬剤師レジデント制度がある^{3,4)}。当委員会では卒後臨床研修制度としての薬剤師レ

ジデント制度を目的にしているため前者を中心に調査した。

薬剤師レジデント募集施設の WEBサイト公開

当委員会では薬剤師レジデント制度の現状を把握する目的で、日本病院薬剤師会会員医療機関を対象にWEBベースのアンケート調査を実施した。当初の調査項目は平成24年度薬剤師レジデント募集に関する項目と平成23年度以前にすでに実施された薬剤師レジデントプログラムの詳細に分かれる。平成24年度薬剤師レジデント募集に関する項目については、施設の了解を得たうえで、薬剤師レジデント・ディレクターとしてWEBサイト「病院薬剤師レジデント制度について/日本病院薬剤師会学術第6小委員会」<http://mss.usindia.com/anket/top.html>に公表しており、平成24年5月時点で22施設の登録があった(図2)。

病院薬剤師レジデント制度について

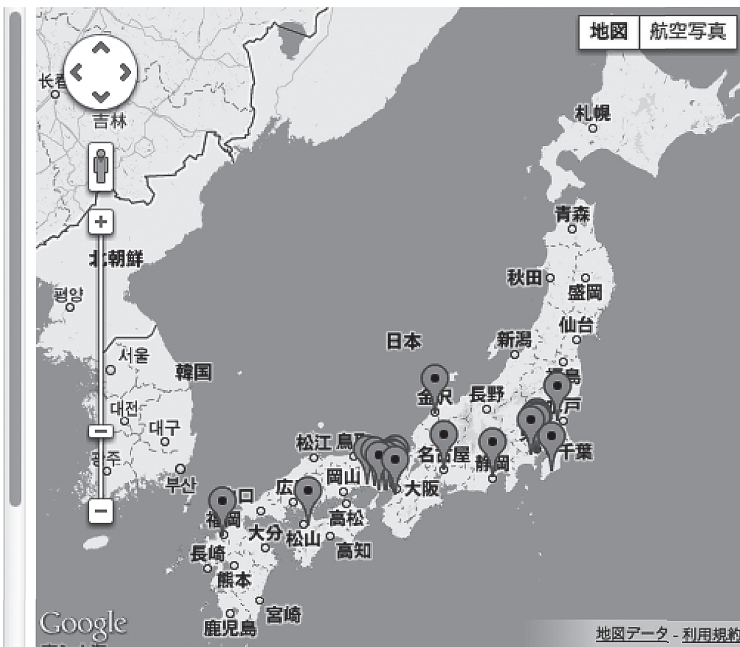
日本病院薬剤師会学術第6小委員会

[トップページ](#) [レジデント募集病院マップ](#) [病院薬局協議会記録](#)

薬剤師レジデント募集医療機関MAP
 MAPにピンが立っているところがレジデント募集を行っている医療機関です。「詳細へ」をクリックすると募集要項の概要がご覧になれます。さらに詳しい内容については掲載されている医療機関の連絡先にお問い合わせください。

登録病院数：22病院

- 茨城県立中央病院
- 亀田総合病院
- 横浜新緑総合病院
- 北里大学北里研究所病院
- 国立国際医療研究センター病院
- 昭和大学病院
- 国立成育医療研究センター
- 金沢市立病院
- 静岡県立総合病院
- 名古屋大学医学部附属病院
- 国立循環器病研究センター
- 市立堺病院
- 兵庫医科大学病院
- 兵庫県立がんセンター
- 兵庫県立加古川医療センター
- 兵庫県立姫路循環器病センター
- 兵庫県立尼崎病院
- 兵庫県立西宮病院
- 神戸大学医学部附属病院
- 神戸市立医療センター中央市民病院
- 愛媛大学医学部附属病院薬剤部
- 福岡大学病院



地図データ - 利用規約

<http://mss.usindia.com/anket/top.html>

図2 薬剤師レジデント募集医療機関MAP

薬剤師レジデントの現状調査概要

初期研修プログラムとしての薬剤師レジデント制度は、薬学教育の四年制から六年制への移行期、すなわち薬系大学からの新卒者がほとんどなかった平成22～23年度を境に増加傾向がみられ、平成24年度受け入れ分から募集を始めた施設も多くみられた。病院規模はベッド数が200床以下の病院から1,000床を超える大学病院まで多岐に渡っている。研修期間はすべて1年以上であり、米国のPGY1、PGY2に対応する形で、2年に渡って段階的なプログラムを呈示している施設が大半を占めた。また、研修期間の延長を認めている施設もあった。

既存の薬剤師研修制度と異なる点として、薬剤師レジデントにはなんらかの給与が支払われていた。多くは非常勤薬剤師の採用枠を利用して人件費を確保し、月額で初任給と同等かやや少なめの給与が支払われていたが、交通費や福利厚生なども非常勤職員並みの処遇が与えられる場合もあった。

指導体制については、がん、感染制御、精神科薬物療法、緩和薬物療法、栄養サポートチーム（NST）、糖尿病などの専門認定を受けた薬剤師が在籍している施設が多く、薬剤師レジデントの教育にその専門性が活用されている。また、薬学六年制教育における早期体験学習や病院実務実習受け入れにあたって、薬剤師レジデントが薬学生の指導にかかわることにより、双方の教育に効果をもたらした事例の報告もあった^{5~7)}。

薬剤師レジデント交流会

平成24年3月20日に当委員会メンバーが所属する神戸大学・神戸薬科大学戦略的連携支援事業、兵庫医科大学病院薬剤部、神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部の共催により「薬剤師レジデント交流会～明日への夢をつなごう～」が開催された。当日は、約160名の参加者を数え、薬剤師レジデント制度を開設している施設や今後レジデント生の募集を計画している施設、薬系大学

関係者らに加えて現役の薬学生の参加が全体の半数を占めた。特別講演、現役レジデントによる海外研修報告やポスター発表、レジデント経験者や指導者、大学教員を交えたパネルディスカッションと密度の濃いプログラムを通して、病院薬剤師レジデント制度の今後の方向性について活発な議論がなされた。総合討論では、レジデント制度を遂行するための財源確保、研修カリキュラムの質の担保、第3者機関によるプログラム認証の必要性なども指摘された。

おわりに

本稿では、委員会活動の概要を紹介するにとどめたが、詳細は上述の当委員会WEBサイト上で閲覧可能としたので参照されたい。当委員会の活動により、六年制薬学教育下における卒後薬剤師研修制度確立に向けた議論が促されることを期待している。最後に当委員会活動にご協力いただいた諸氏に心より感謝の意を表したい。

引用文献

- 1) American Society of Health-System Pharmacists : Residency Accreditation.
<http://www.ashp.org/menu/Accreditation/ResidencyAccreditation.aspx>, Accessed May 15, 2012.
- 2) 鷺山厚司, 山本知佳ほか: 福岡大学病院における薬剤師レジデント制度の構築, 医療薬学, **34**, 853-859 (2008).
- 3) 加藤裕久: 国立がんセンター「薬剤師レジデント」制度について, 日本病院薬剤師会雑誌, **43**, 1495-1496 (2007).
- 4) 篠道 弘: がん専門薬剤師育成のためのレジデント制度の発足, 薬局, **58**, 3174-3176 (2007).
- 5) 山本知佳, 鷺山厚司ほか: 新人薬剤師による病院早期体験学習指導体制の構築, 薬学雑誌, **130**, 821-831 (2010).
- 6) 奥貞 智, 橋田 亨: 実務実習第二期を終えて・ポートフォリオ評価とプリセプターの活用, 薬事新報, **2665**, 99-104 (2011).
- 7) 奥貞佳奈子, 奥貞 智ほか: 薬学実務実習におけるプリセプターとしての薬剤師レジデントの役割, 薬学雑誌, **132** (印刷中).